# ３.広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

令和７年度の広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率を集計しました。

## 定　義

◇集計値は次の式で算出した値とする。
（分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数／広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数）×100

| 広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数（分母） | 分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数（分子） | 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率 |
|---|---|---|
| ３８５ | ２３８ | ６１．８２% |

## 解　説

広域スペクトル抗菌薬（広域抗菌薬）とは、幅広い種類の細菌に効く抗菌薬をいいます。広域抗菌薬は便利な薬ですが、過剰な使用を続けていると、新たな抗菌薬を投与しても効かない状態になることがあります。

細菌感染症の治療開始前に、採取した検体（喀痰、尿、便、血液など）に含まれる原因菌を特定しますが、重症例や緊急例などで早急に広域抗菌薬を投与することがあります。その場合でも、細菌培養検査の結果や患者さんの症状を診て、より原因菌に有効な抗菌薬へ切り換えて投与しています。